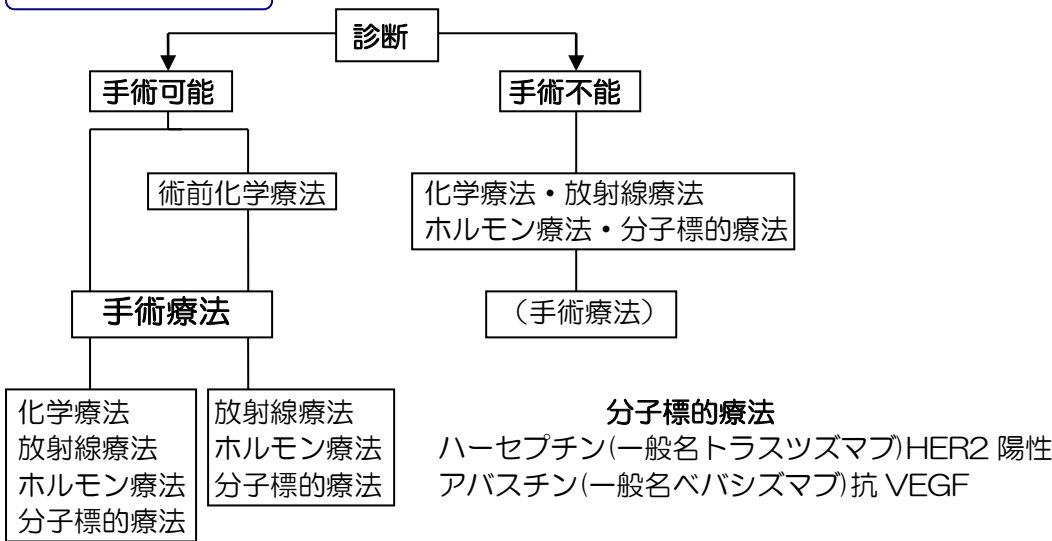




タレントの北斗晶が乳癌と診断され、手術、抗癌剤、放射線治療の予定となっているとマスコミの報道がありました。日本の乳癌患者は例年増加し現在女性のがん臓器別罹患者のトップとなっています。約20人に1人の女性が乳癌を経験し、その20%くらいは45才未満とされています。乳癌治療の流れのフローチャートを示します。

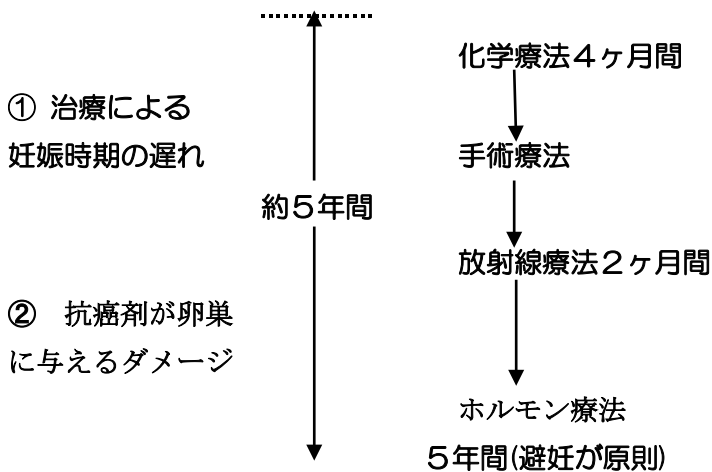
乳癌治療の流れ



乳癌治療では手術可能例では手術を先行させるのが一般的ですが最近では術前に化学療法を行い腫瘍を小さくしてから手術する例もあります。ほとんどの症例で手術後に放射線療法やホルモン療法など追加治療が必要です。手術不能例では、化学療法、放射線療法、ホルモン療法、分子標的療法などを先行させ最終的に手術できる状態にもっていくことが目標です。このような治療が妊孕性に与える影響があります。しかも全ての治療がおわるのに約5年間はかかるのが一般的です。

乳癌治療が妊孕性に与える影響と問題点

乳癌の治療のスケジュール



乳癌にかかる年齢にもよりますが、現在の晩婚化を考えると乳癌の治療によって妊娠可能な期間を逃すこともおこり得ます。又抗癌剤の卵巣に対するダメージも問題になります。この問題に関しては次のさくらだよりで紹介しましょう。いずれにいても乳癌は非常に多い癌ですので検診をおこたらないようにしましょう。

★5月から8月までの4ヶ月間のARTの成績です。

更に妊娠率をあげて常時40%以上になるよう日々努力したいと考えています。

《2015年5月～8月のARTの成績です》

採卵件数・・・145例【～29歳9例、30～34歳23例、35～39歳44例、40歳～69例】

受精方法別 { 体外受精・・・100例
顕微授精・・・35例

融解件数・・・115例【～29歳9例、30～34歳30例、35～39歳41例、40歳～35例】

移植件数・・・120例【～29歳10例、30～34歳30例、35～39歳43例、40歳～37例】

妊娠数・妊娠率（移植あたりの胎嚢陽性率）・・・43例（35.8%）

【～29歳3例（30.0%）、30～34歳14例（46.7%）、

35～39歳17例（39.5%）、40歳～9例（24.3%）

